

---

---

# グローバル化時代の外国語教育

大井 真奈

---

---

## 0 はじめに

近年「グローバル人材」という言葉を耳にする機会が多くなり、大学教育の場においても日本学術振興会と文部科学省が連携してスーパーグローバル大学創成支援事業<sup>1</sup>を行っている。グローバル人材というと、高度な外国語能力や海外経験といったことが言われることが多く、実際この事業に採択された大学が設定している主な成果指標<sup>2</sup>としても外国人教員の増員や留学生の受け入れ、日本人学生の留学促進といったことと並んで「外国語による授業科目を増やす」「外国語のみで卒業できるコースの在籍者の増加」「外国語基準を満たす学生数を増やす」いったことが挙げられている。その際に「シラバスの英語化を進める」とも述べられているように、多くの場合これらの「外国語」は英語を指しており、グローバル人材の外国語＝英語という図式が成り立っているのが現状である。

しかし、世界のグローバル化を考える場合、「グローバル人材」に必要な外国語とは本来なら英語に限らず、他のヨーロッパ系諸言語や近隣のアジア各国の諸語も含まれるべきであるし、さらに言うならば、語学・コミュニケーション能力を基盤に異文化間の相互理解を図り交渉する力を身につけることこそが重要な課題となるはずである。

本稿ではこのような観点から、グローバル人材育成のために外国語教育がすべきことを考察していく。

## 1 グローバル人材とは

2012年に公表された「グローバル人材育成戦略<sup>3</sup>」によると、「グローバル人材」の概念として、「語学力・コミュニケーション能力」「主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感」「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー」の三つの要素があるという。

さらに続けてグローバル人材の能力水準の目安として「道具」としての語学力・コミュニケーション能力を基軸として①海外旅行会話レベル②日常生活会話レベル③業務上の文書・会話レベル④二者間折衝・交渉レベル⑤多者間折衝・交渉レベルの5段階に分け、我が国においては①～③レベルのグローバル人材の裾野の拡大については着実に進捗しつつあるものと考えられるので、今後は④⑤レベルの人材の育成及び確保が極めて重要だと述べられている<sup>4</sup>。

このような政府方針に基づいての「スーパーグローバル大学創成支援事業」であるし、グローバル化時代

にあっては高度の外国語（英語）ができないと社会の中で生き残れないといった論調が多くみられる。

しかし、「グローバル人材育成戦略」において前述の④⑤レベルのグローバル人材の潜在的な候補者となるのは、概ね 20 歳代前半までの若い世代のうちの 10%（11 万人程度）とされている<sup>5</sup>。さらに、日本人で「仕事で英語を使用している」割合は就労者のうちの 2 割程度、主観的な必要性（職場での英語の必要感・英語の有用感）でも 4 割程度であるという<sup>6</sup>。

このような現状において、「グローバル人材」となるような意識を持たない学生にとって外国語教育は不要だというわけではなく、全ての学生にとって外国語教育は必要だと考える。その理由を次章で考察する。

## 2 異文化理解の必要性

現代の日本では、明治のお雇い外国人のような外国人からしか学べないような学問分野が取り立ててあるわけではなく、前章でも引用したように仕事でも英語を必要とする割合も少ない。ましてや英語以外の外国語が実務上で必要な割合はもっと少ないのが現状である。その上、近年の AI 技術の進化により、そのうち機械翻訳で全て可能になるから語学は必要ないと考えている学生もおり、外国語は学校の授業で「学ばされる」以外に必要性を感じない者も少なくない<sup>7</sup>。機械翻訳については、ビジネス会話の和文英訳ならかなりの精度で可能になってきているそうだが<sup>8</sup>、文学作品などはまだ無理であるし、英語以外の言語では例えば独日、日独翻訳などはまだとても利用できる精度ではない。だがこれも当分不可能と思われていた「アルファ碁」がトップ棋士に勝利を収めるようになったように、AI 翻訳で全て可能になる時代も来るのかもしれない。

しかし、それでも外国語学習は意義があるはずである。というのも、「言語は文化の主要な側面であるばかりか、様々な文化表出に至る道でもある<sup>9</sup>」からである。域内に多文化・多言語を抱え、歴史的にみても長期間域内を支配したある一つの言語は存在しなかったヨーロッパにおいては「異なった母語を話すヨーロッパの人の間のコミュニケーションと相互対話を容易にし、ヨーロッパ人の移動、相互理解と協力を推進し、偏見と差別をなくすことはヨーロッパで使われている現代語をよく知ることによってのみ可能になる<sup>10</sup>」という原則のもとに様々な言語教育プログラムが施行され、それによる相互理解の推進が試みられている。

日本は地理的にも歴史的にもヨーロッパとは状況は異なるが、人口減少社会にあって今後、日本で就労する外国人や移民の数は増加することになると思われる。そしてその時には、異なる文化をも尊重し、相互理解を進めようとする姿勢が重要になるであろう。そのためには、外国語教育を通してそもそも日本とは異なる文化、考え方があることを学び理解することが有用であると考えられる。

## 3 まとめ

近年急増した難民の流入が引き金となって、9月に行われたドイツの連邦議会選挙においてドイツの EU 離脱と反移民を掲げる政党である「ドイツのための選択肢（AfD）」が第3党に躍進し、10月のオーストリ

アの国政選挙においても極右政党である自由党が第二党と僅差の第三党となり連立政権入りするなど、ヨーロッパにおいても異文化に対する不寛容が広がっている。

日本においても、今後グローバル化がますます進み外国人の流入が増加した場合に同様のことが起こる危険性がある。さらに、そのような異なる文化背景を持つ他者への無関心や不寛容さがテロなどの暴力行為やそれによるさらなる嫌悪感といった負の連鎖の要因となりうることは、昨今の欧米の事例からも容易に想像できる。そうならないためにも、学生たちが外国語学ぶことを通して異文化を理解し尊重することの重要性を学べるような土台を作ることが重要であり、このような観点から外国語教育を進めることが必要であると思われる。

実際、筆者が行った前掲のアンケートにおいても、AI翻訳が人間並みの精度にまで達したとしても外国語学習は必要だと回答している学生は9割近くいた。その理由として、教養としての語学の必要性をあげているものも多かったが、異文化理解や相互コミュニケーションのために外国語を学ぶことの必要性を述べたものの他にも、流暢でない日本語でも外国人が一生懸命に話してくれてうれしかったという自身の経験から、今後は自分自身も外国語を学び片言でも良いから使いたいと思ったといった回答が一定数見られ、このような前向きな姿勢の積み重ねが、異文化に対する寛容さにつながると考えられる。試験を行い成績をつける以上、文法、語法、発音といった面での正確性が問われるのは当然であるし、外国語を学ぶ以上はできるだけ正確な知識を身につけてもらいたいと考えるが、正確さを要求するあまり先述のアンケートの回答に見られるような学生の前向きな姿勢を挫くことのないように、授業においては、流暢でなくとも常に相手とコミュニケーションを取ろうとする態度を促すようにし、正確さとは別に積極的なコミュニケーションを取ろうとする態度に対してもある程度の評価を与えるようにすべきであるとする。

(本学非常勤講師)

---

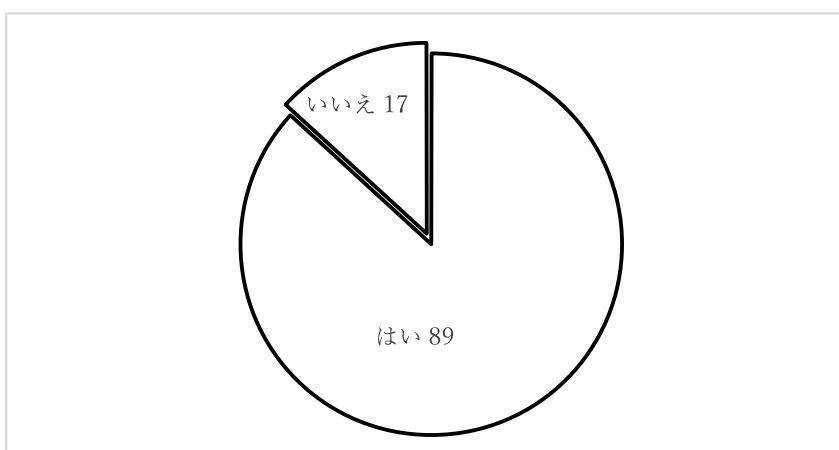
## 注

- 1 <http://www.jsps.go.jp/j-sgu/index.html> (2017年9月10日閲覧)
- 2 <https://tgu.mext.go.jp/about/index.html> (2017年9月10日閲覧)
- 3 内閣府主催のグローバル人材推進会議が審議のまとめとして公表 <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/global/1206011matome.pdf> (2017年9月10日閲覧)
- 4 前掲資料 8-9 頁
- 5 前掲資料 10 頁
- 6 寺沢拓敏 「『日本人と英語』の社会学—なぜ英語教育論は誤報だらけなのか」 研究社 (2015年) 175 頁
- 7 筆者が2017年度に担当している高校から大学の学部生にAI翻訳に関する意識調査のアンケートを行ったところ、1割強の学生が今後AI翻訳の精度がより高まり人間が翻訳する必要がなくなる、あるいは将来AI翻訳の精度が人間並みになった場合には外国が学習の必要はなくなると思うと回答した。なお、このアンケートは初級を中心に中級、上級クラスで行い、有効回答数は106名であった(後掲、参考資料)
- 8 2017年9月14日読売新聞「AI翻訳進化 英語教育必要？」より
- 9 吉島/大橋訳・編「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」朝日出版社(2004年)5頁
- 10 吉島/大橋2頁

## AI 翻訳と外国語学習についての意識調査

この調査は筆者が 2017 年度に受け持っている高校から大学までの学生のうち、総計 106 名から回答を得たものである。

1 あなたは今までに google 翻訳などの AI 翻訳を自分で利用したことがありますか



2 <1で「はい」と答えた人>

① どのような場面で、②何語間で利用したか教えてください（複数回答可）

① 場面（回答数の多い順）

- 学校の課題やテスト勉強
- 趣味の調べ物
- 外国人とのコミュニケーションの際に（友人とのメッセージにやり取り、道案内、海外旅行先で）
- マニュアルや外国語の HP の翻訳

② 何語で（回答数の多い順に）

- 日本語⇄英語
- 日本語⇄ドイツ語
- 日本語⇄韓国語
- 日本語⇄中国語
- 日本語⇄スペイン語
- 日本語⇄イタリア語
- 日本語→フランス語、ウクライナ語、アラビア語、ポルトガル語、タイ語、
- ドイツ語→オランダ語

3 <1で「いいえ」と答えた人>

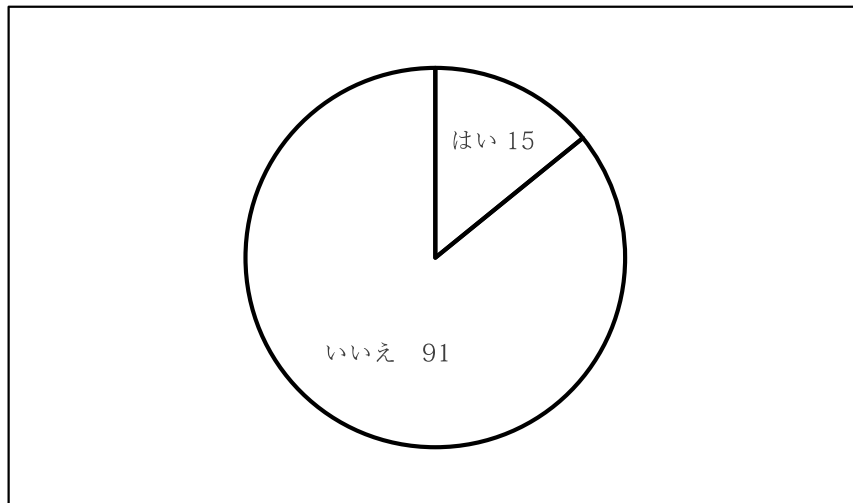
① AI 翻訳があることは知っていましたか (( ) 内の数字は回答者数)

- はい (6)
- いいえ (11)

② 今後 AI 翻訳を自分で利用することはあると思いますか

- はい (10)
- いいえ (7)

4 今後 AI 翻訳の進歩によって人間による翻訳が必要なくなると思いますか。そのように答える理由も教えてください



「はい」の理由

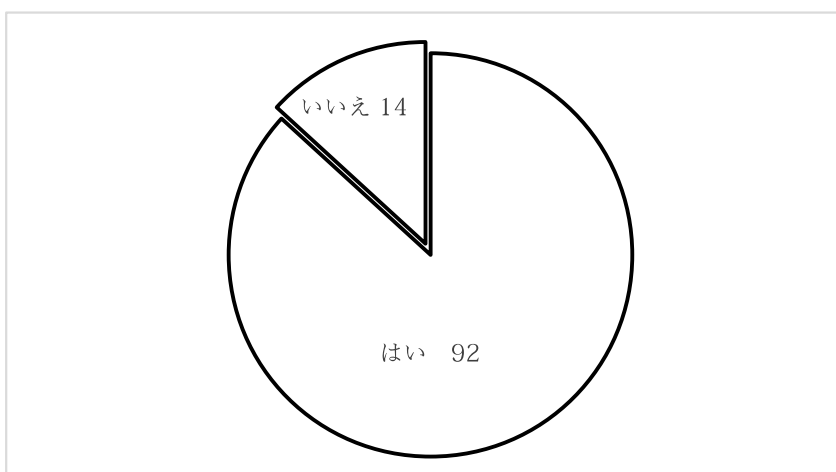
- 今後技術の進歩により今は AI が不得手とする分野も精度が上がる
- 大まかな意味だけが分かればよい場合もある
- 楽だから

「いいえ」の理由

- 自然な翻訳にならないときがある
- 細かいニュアンスなど単語やフレーズ一つ一つにも色々ある
- AI は感情表現に乏しい
- ことばは状況、時代や場所などにより常に変容し、AI はそれに即座に対応できない
- 精度が高くないでも、人間は類推できる
- 曖昧な表現にこそ魅力がある
- 特に日本語の敬語や倒置法は機械で翻訳するのは難しいと思う

- 意識は人間の方が得意
- 特に文学作品など、たとえ誤訳であってもそれが一つの作風や表現になる
- 文学作品で作者の心情をより深く考えたほうがよいものなどは、人間のほうが適している

5 今後 AI 翻訳が人間並みの能力を持ったとしたら、それでも外国語学習は必要だと思いますか。そのように考える理由も教えてください



#### 「はい」の理由

- 言語は情報伝達的手段であると同時に文化を形成するものであるため、異文化理解のために必要
- 自分が外国人にたとえつたない日本語でも話しかけられてうれしかった経験があるので、外国語を学び使うことは必要だと思う。
- たとえ流暢でなくても、自分の言葉で何とかコミュニケーションをとろうとすることがよい経験になる。自分の気持ちが伝わる
- 異文化コミュニケーションのためには直接自分の言葉で話すことが大切。グローバル社会に対応するためには必要。
- コミュニケーションは人間が行うべきもの
- 会話は間が大切なので、話すという意味での学習は必要
- いちいち AI 翻訳を使うのが面倒。スマホなど翻訳に必要な機械が使えない時に全く外国語ができないと困る
- 外国語は人間の脳によって身につけることに意味がある
- 自分を高められる、頭がよくなる、外国語を学ぶ機会が失われる。外国語を学ぶことで、新たな発見がある
- ある程度外国語の知識がないと、AI による翻訳が本当に正しいか判断できない。ま

たその間違っただ表現をそのまま覚えてしまう危険もある

「いいえ」の理由

- 機械で完全にできるのであれば、人間がする労力や時間が無駄。その時間を他のことに使える
- 文学には興味がなく、それ以外の翻訳なら AI で可能になると思う

